

環境マネジメント

基本的な考え方・方針

ユニ・チャームが提供している商品やサービスは衛生的な日常生活に欠かせない消費財です。同時に、資源の利用や廃棄物発生など地球環境と密接に関係しています。また、世界中でよりよい商品を提供するためにアジアを中心としてグローバル展開を進めており、環境負荷低減の役割や責任が年々拡大しています。

当社では、「The Unicharm Way」(社是、「信念と誓い」と企業行動原則)の考え方に則り、「環境基本方針」「環境行動指針」を制定し、全社員で環境活動に取り組んでいます。私たちが携わる事業活動が環境に与える影響を把握し、持続可能な社会の実現に向けて「環境負荷低減」と「経済性」の“2つのエコ”の実現のための取り組みを推進しています。

▶ 環境基本方針、環境行動指針

ユニ・チャームグループ環境基本方針

私たちは、未来の世代へ美しい地球を受け継いでいくために、使い捨て商品を取り扱うメーカーとしての責任の大きさを認識し、全ての企業活動を通じて地球環境に配慮したモノづくりを推進します。世界中の全ての人々のために、快適と感動と喜びを与えるような商品・サービスを提供し、地球環境保全と経済的成長を両立した持続的発展可能な社会の実現に貢献します。

ユニ・チャームグループ環境行動指針

法規制・ルールを守るう！
ムダを省こう！
生産性を高めよう！
資源使用量を下げよう！
環境に良いものを選ぼう！
環境問題のことをもっと知ろう！
環境改善の輪を広げよう！

ステークホルダーとのエンゲージメント

102-13

気候変動などの環境問題は、当社だけで解決できるものではありません。そのため、企業・団体や政府などのさまざまなステークホルダーの施策に対して、積極的に参画し、取り組みを推進していきます。

国の施策への対応

閣議決定された「2050年カーボンニュートラル」宣言に基づき、当社も2050年ビジョン「CO₂排出^{ゼロ}社会」の実現に向けた活動を推進します。

まずは、2020年10月に賛助会員として入会した日本気候リーダーズ・パートナーシップ(JCLP)と連携し、2030年再生可能電力比率100%に向けて再生可能電力の調達を積極的に進めています。

日本経済団体連合会の施策への対応

当社は、一般社団法人日本経済団体連合会(以下、経団連)に加盟しており、経団連が進める施策を積極的に推進しています。

- ・経団連低炭素社会実行計画
- ・経団連カーボンニュートラル行動計画
- ・循環型社会形成自主行動計画
- ・経団連生物多様性宣言、行動指針 など

環境活動テーマの妥当性確認

103-3

当社は2019年、NGOとの意見交換を通じてマテリアリティの特定を行い、2030年をゴールとする「環境目標2030」と中長期ESG目標「Kyo-sei Life Vision 2030」を策定しました。

「環境目標2030」について

102-21,102-43,102-44

「環境目標2030」を策定するにあたり、当社はステークホルダーとの意見交換会を実施し、マテリアリティ特定と目標設定を行いました。また社内でも目標達成に向けた議論を進めています。

環境活動意見交換会を実施

環境課題を正しく捉え事業活動に活かすことを目的に、2019年4月にWWFジャパンとの意見交換会を実施しました。WWFジャパンからは、自然保護室長他3名にご参加いただき、当社からはマーケティング部門やESG部門の担当者が参加しました。

【意見交換会における示唆】

(1) ビジョンについて

- ・2030年の環境目標を設定・開示する際には、その先にある「2050年のあるべき姿・ビジョン」を示すこと
- ・「2050年ビジョン」を設定した上で、この大きなビジョンに至る過程である2030年までに何を成すべきなのかを考えること

(2) 課題提起

- ・事業内容を踏まえ、主体的に取り組むべき課題は、1.プラスチック汚染、2.気候変動への対応、3.持続可能な森林資源の調達の3つである

1. プラスチック汚染への取り組みについて

- ・3R(Reduce、Reuse、Recycle)の順番を間違えずに資材使用量の削減や再生材の活用を進めること
- ・「Refuse」「Replace」を加えた5Rも検討対象としてできることから着実に実行すること

- ・ユニ・チャームの取り組み状況が把握できる情報開示を積極的に進めること

2. 気候変動対応への取り組みについて

- ・「2050年CO₂排出^{ゼロ}社会」を目指す取り組みを宣言し、行政や電力事業者への働きかけなどを実施して「再生可能エネルギー社会」の実現の加速につながる積極的な取り組みをすること

3. 持続可能な森林資源の調達への取り組みについて

- ・同じ森林認証材でも産地によって問題が発生している事例もあるため、原産地調査の徹底とその情報を開示すること
- ・商品の原材料はもちろん、オフィス家具や配布物などで使用される森林由来資材にもガイドラインを活用し、運用の拡大を進めること

これらのご意見を踏まえ、ESG委員会のテーマとして議論を進め、2020年5月「環境目標2030」を策定し、全社で推進しています。

▶ ユニ・チャームが2030年に向けて特定した環境マテリアリティ

強 ステークホルダーの 関心	・水資源の有効利用	・森林資源の有効利用 ・環境配慮型商品の促進	・海洋プラスチック汚染 ・気候変動対応
	・大気汚染対応 (NOx・SOx)	・水産資源保全の推進	・リサイクル社会の推進 ・開示情報の質向上
	・法規制の遵守	・効率的な生産活動の推進	・化学物質の適正管理
事業へのインパクト			強

▶ 環境目標2030

	実施項目	基準年	2021年目標	2021年実績	2022年目標	2030年目標	2050ビジョン
プラスチック 問題対応	包装材における使用量削減	原単位	2019年※1	▲3%	▲0.2%	▲6%	▲30%
	石化由来プラスチックフリー商品の発売	—	—	—	開発継続	開発継続	新たな廃プラスチック ^{ゼロ} 社会の実現
	使用済み商品廃棄方法啓発	—	—	30%	38% (6カ国)	45%	グループ全社で展開
	販促物でのプラスチック使用ゼロ	原単位	—	▲10%	▲8.9% (日本)	▲20%	グループ全社で原則ゼロ
気候変動 対応	原材料調達時CO ₂ 排出量削減	原単位	2016年	▲1.7%	9.7% (日本)	▲3.4%	▲17%
	製造時CO ₂ 排出量削減	原単位	2016年	▲3.4%	▲26.9%	▲28.0%	▲34%
	使用済み商品廃棄処理時CO ₂ 排出量削減	原単位	2016年	▲2.6%	23.7% (日本)	▲5.2%	▲26%
森林破壊に 加担しない (調達対応)	パルプ、パーム油の原産地(国・地域) トレーサビリティ確認	—	—	森林由来 原材料： 98%※2	森林由来 原材料： 97%※2	森林由来 原材料： 98%※2	完了
		—	—	パーム油： 80%	パーム油： 77%	パーム油： 80%	
	認証パルプ(PEFC・CoC認証)の拡大	—	—	認証工場数 比率： 50%※3	認証工場数 比率： 56%※3	認証工場数 比率： 60%※3	100%
		—	—	認証材調達 比率： 60%※4	認証材調達 比率： 70%※4	認証材調達 比率： 75%※4	
認証パーム油(RSPO)の拡大	—	—	80%	77%	80%	100%	購入する木材について自然森林破壊 ^{ゼロ} 社会の実現
紙おむつリサイクル推進	—	—	—	開発継続	開発継続	10以上の自治体で展開	

※1 設定当初、基準年を2016年としていましたが、2020年に再検討し、「2019年」に改めました。

※2 第三者認証材に加え、原産地(国・地域)トレーサビリティ確認ができた森林由来原材料比率。森林由来原材料は、パルプ、ティッシュ、セパレーター、エアレイドパルプが含まれます。

※3 当社工場におけるCoC認証取得工場数の比率。

※4 第三者認証材の森林由来原材料比率。森林由来原材料は、パルプ、ティッシュ、セパレーター、エアレイドパルプが含まれます。

マネジメント体制

102-20

当社の環境活動は、取締役会の下に設置されているESG委員会(社長執行役員が委員長)が全体の管理・監督を行っています。

日々の業務と密接に関連するISO14001、ISO9001の統合的な運用については、各事業所が主体的に推進し、あらかじめ設定した管理項目・KPIに照らしてゲート管理を行い、PDCAサイクルを回しています。なお、環境に関する状況把握などはESG本部が担い、年4回開催されるESG委員会に報告します。ESG委員会での報告内容、討議事項については、取締役会にも報告されます。

▶ 環境マネジメント体制



P.011 サステナビリティマネジメント>ESG推進体制

2020年に策定した「環境目標2030」と中長期ESG目標「Kyo-sei Life Vision 2030」(中でも、「地球の健康を守る・支える」で取り上げている重点取り組みテーマ)を当社の環境重点目標として位置づけ、各部門の目標に落とし込み、さらに部門から個人の目標や、週単位の行動計画に紐づけるといったきめ細かい活動を行っています。

中長期ESG目標「Kyo-sei Life Vision 2030」の重要取り組みテーマは、2030年まで時間をかけて目標達成を図り、「環境目標2030」は毎年確実に成果を積み上げていきます。

また、2020年より役員報酬の評価指標のひとつである、全社重点戦略にESG評価を加え、取締役や執行役員が先頭に立ちESG戦略・目標の完遂を実行しています。

ISOに基づく環境マネジメント

当社では、環境改善のツールとしてISO14001を導入し、環境マネジメントシステム(EMS)に則り、継続的改善を推進しています。

国内外の各事業所でISO9001およびISO14001を認証取得し、それに基づく品質マネジメントシステム(QMS)および環境マネジメントシステム(EMS)を適用しています。

P.071 品質>ユニ・チャームグループのISO9001、ISO14001、ISO13485取得状況(認証単位)

環境リスク予防とパフォーマンス向上のための環境監査

307-1

当社では、環境リスクの予防と環境パフォーマンスの向上を目的とし、主に3つの環境監査を実施しています。

- (1)ISO14001環境マネジメントシステムに基づく定期監査
- (2)産業廃棄物適正処理のための委託先現地確認
- (3)法規制遵守状況確認など、目的を絞ったフォーカス監査

環境法規制監査の結果

環境法規制上求められる検査やデータの集計および行政提出書類については、2021年も正しく提出されていることを確認しています。環境法規制違反による罰金の発生はありません。また係争中の環境案件もありません。

取り組み・実績

ライフサイクル全体で見るエネルギー・マテリアルフロー

301-1,301-3,302-1,302-2,303-1,303-3,303-4,
305-1,305-2,305-3,306-1,306-4,306-5

当社は、消費財メーカーとして事業活動のさまざまな場面で資源を利用しています。資源を利用し、事業活動を行うメーカーの責任として、資材調達から製造、輸送、使用後の廃棄に至るサプライチェーンの各事業活動を通じて、環境改善を推進しています。

▶ ライフサイクルで見るエネルギー・マテリアルフロー

